

令和5年度 5月号

めいいか

令和5年4月28日
文京区立明化幼稚園

安心の基地

園長 池田 克子

さわやかな季節になりました。園庭では、年長組の作った大きなこいのぼりが元気に泳いでいます。年少組はシール、年中組はのりでうろこを貼り、こいのぼりを作りました。自分のこいのぼりを手に持って嬉しそうに遊んでいます。



入園・進級から約1か月が過ぎました。緊張していた表情も少しずつ和らぎ、子どもたちは幼稚園で安心して過ごせるようになってきました。入園・進級当初は、新しい環境に戸惑い、緊張から玄関で保護者の方と離れられなかったお子さんが、自分から玄関に入って靴を履き替えたり、泣かずに登園したり、子どもたちが日々成長する姿が見られ、嬉しく思います。そして、毎朝、頑張っているのは子どもたちだけではありません。玄関でお子さんを送り出す保護者の方の様々な思いも伝わってきます。「幼稚園で緊張しないで過ごせるかしら」「楽しく遊べるかしら」という心配や不安を親としてもちつつ、「行ってらっしゃい」と我が子の背中を押し、笑顔で送り出してくださる保護者の方の愛情が子どもたちに安心感として伝わっています。

研修会で「乳幼児期に育てたいもの—アタッチメントと非認知的な心の特徴」について東京大学大学院教授の遠藤利彦氏より学ぶ機会がありました。アタッチメントとは、いつところ構わずくっつくということではなく、子どもが怖くて不安な時に、特定の信頼できる大人にしっかりとくっつくことで安心感をもつことです。このアタッチメントは、日常の中で何回も繰り返される当たり前の関係の中でこそ豊かに育まれます。「自分は必ず護ってもらえる、愛してもらえる」「何があっても助けてもらえるから大丈夫」という強い確信をもてることが基盤となり、その信頼できる大人を「安心の基地」として活動の範囲を広げていくことができるようになります。子どもにとって身近な大人がしっかりと受け止め、感情を立て直し、安心感を与えることが乳幼児期にはとても大切であるという話を伺いました。

連休明け、久しぶりの幼稚園に不安を感じるお子さんもいるでしょう。幼稚園でも子どもの「安心の基地」をしっかりと築くことができるよう、個々の幼児の思いに寄り添い、受け止めながら、安心感をもって園生活を過ごせるように援助していきたいと思います。



こいのぼり作り(年少組)



大きいこいのぼりも作りました
(年中組)



グループの友達と
こいのぼり作りの相談(年長組)